

法・調査統計的方法・文献資料によるものかを調べた。

3. ①三科学分野のうち自然科学系統の研究論文が最も多く約8割を占め、この意味からは家政学は自然科学に基礎をおくものであるといえることができる。②研究方法としては実験実習など技術的方法が67%で多く用いられていて科学技術振興の波にのっているようにもみえる。③被服関係が44%で圧倒的に多く、次が食物関係の30%、住居関係は7.8%で家庭管理関係の6.7%に接近している。終戦後16年の経過により食生活は満たされてきて次に衣生活が、そして、新繊維の出現などによって研究問題として多く取りあげられていることがわかる。

24. 家政学の諸問題（第6報）

今日の家政学

大妻女子大 前川 当子

1. これまで家政学について種々な側面から approach をすすめてきたが、家政学を独立科学として自他共に認めあうためには、家政学について一層客観的な追求を積み重ねてゆかねばならないと考える。今回は、今日、家政学の分野において如何なる研究調査が多くなされているか、如何なる問題が提起されつつあるかという見地から全体的分析を行なって、それらを明らかにしたい。

2. さきに家政学雑誌創刊から1959年7月迄の雑誌掲載の論文371件について調査検討したが、その後時勢の進展が家政学研究者の傾向をどのような方向に進めたかを明らかにするため1961年7月迄のものを加え536論文について調べ、前回の結果とあわせて考察した。三科学分野（自・社・人）に類別し、その方法が実験実習的方